

【単元名】小学校でのおもいでを いつもあえない〇〇先生に てがみで しらせよう。

【教材名】「てがみで しらせよう」(光村図書)

【単元目標】

- 丁寧な言葉を使って、幼稚園・保育園の先生に伝えたいことを、分かりやすく書く。
- 書いた文を読み返して、言葉のつながりや間違いに気付き、直す。
- 伝えたいことがまとまるように、語と語のつながりを考えて書く。

- 【指導事項】◎丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。(知(1)キ)
- ◎文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。(思B(1)エ)
 - ◎語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。(思B(1)ウ)

【言語活動】伝えたい相手に伝えたいことを選んで、手紙に書く。

【評価規準】

<知識・技能>

- ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。((1)キ)

<思考・判断・表現>

- ・文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文の続き方を確かめたりしている。(B(1)エ)
- ・語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりがわかるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)

<主体的に学習に取り組む態度>

- ・書いた文章を積極的に見直ししながら、これまでの学習を生かして、身近な人に手紙を書こうとしている。

【単元計画】

- 第1時 手紙のよさについて考え、学習計画を立てる。自分が一番知らせたい人を決める。
- 第2時 嬉しかったことや楽しかった事を想起し、手紙に書きたい事柄を集め、自分が一番知らせたい事柄を決める。
- 第3時 手紙の書き方のきまりと気をつけることを考え、共通の相手に対して全員で手紙を書く練習をする。
- 第4時 自分が一番知らせたい相手に手紙の下書きをする。【本時4/7】
- 第5時 前時に書いた手紙の下書きを読み返し、推敲の観点に添って書き方を確かめ、丁寧に清書する。
- 第6時 手紙を読み合って、感想を交流し全体で共有する。
- 第7時 単元を振り返る。

【本時目標】 「手紙の書き方のきまり」を生かして、相手に伝えたい内容を書く。

学習活動

◆導入◆【課題の設定】

1. 活動の流れを確認して、本時のめあてを確認する。

◆展開◆【情報の収集】 【整理・分析】

1. 前時のワークシートを参考にして、自分が選んだ事柄を書きたい相手宛に書く。
2. 自分で読み直し、伝えたいことが書いてあるか。間違いはないか確認する。

◆終末◆【まとめ・表現】

1. 本時のめあてに対する振り返り
2. 次時のめあて設定

指導の手立て【★評価】

【「個別最適な学び」を目指すための手立て】

- 前時までに学んできたことを、自分で必要に応じて見返して活用できるように、【学習計画カード】にまとめる。
- 振り返りを生かして、個人のめあてを前時に設定しておく。
- 便箋の形式で下書きを書くことが難しい児童には、絵葉書形式の下書きができるようにワークシートを用意する。

【「協働的な学び」を目指すための手立て】

- 友だちと読み合っただけで間違いがないか確認できるようにするために、チェックシートに友だちからの確認欄を設定する。
- 似ている話題を選んでいる児童同士で、相談できるように座席を配慮する。

- 前時に設定した個人のめあてを確認する。
- 前時を振り返り、手紙の構成を確認する。
- 児童が、相手に伝えたいことが何かを明らかにしてから書けるように、活動の最初に教師が例示する。
- 児童が「～です。」「～ます。」などの丁寧な言葉で書くために、前時の資料へ立ち返るように教師が促す。
- 何を書いたらよいか戸惑っている児童には、思い出カード等を見ながら、どんな気持ちだったのか、相手にどんなエピソードを伝えたいのか、などを教師と対話を通して、具体的に書けるようにする。
- 早く終わった児童は、読み直しチェックシートを使いながら、自分の下書きを読み直したり、友だちと一緒に読み直したりできるように促す。

【「個別最適な学び」を目指すための手立て】

- 振り返りとともに、次の時間の自分のめあてを設定する。
- 学習計画カードは紙とタブレット、選べるようにする。

★手紙の書き方のきまりを活用して、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。【下書き、活動の様子（知(1)キ）】